

命を守る医師・歯科医師は日本が戦争に進む道には反対です

## 九条医師・歯科医師の会かごしまニュース

(通称：九条医療者の会かごしま)

### 次期総会記念講演は東野氏に決定

第3回会員総会を、8月10日(日)に鹿児島市よかセンター多目的ホール(中央駅前ダイエー8階)で行います。記念講演は、戦争中九州大学で起きた、いわゆる“九大生体解剖事件”について、産婦人科医の東野利夫氏をお招きして、語っていただく予定としています。

医学生として現場に立合い、目撃者になられた東野氏は戦後、8名のアメリカ人捕虜に対する実験手術・解剖がどういう経過でおこなわれたか、丹念に調査し真実を明らかにしてきました。

同氏の講演を通して戦争時に医師・医学者がおかれた状況を知り、戦争と医療の関係を知る機会となればと思います。



テレビ朝日“ザ・スクープスペシャル”で鳥越俊太郎氏のインタビューに応える東野氏

#### 「べてるの家」

いとう耳鼻咽喉科 伊東一則

「べてるの家」に嵌っている。人口1万5千の小さな町、北海道浦河町の日高昆布加工会社は年商一億。社長以下従業員全員が統合失調症。会社のスローガンは「問題大歓迎」「弱さを絆に」「安心してサボれる職場作り」「昆布も売ります病気も売ります」とかなり刺激的。その実態は社会福祉法人なのだが、そこに集う人々の活動が話題となり、視察者は増加の一途。障害者ゆえのトラブル続発に閉口していた町長も今では「病気で町おこし」と彼らを全面的にバックアップ。「苦労を取り戻させ」問題に向き合い自立を促す。周囲に迷惑をかけながらも、そのことで人との繋がりを作っていく。このユニークな取り組みは世界精神医学会でべてるのメンバーにより発表され多くの関心を集めている。

一方で内部犯行の可能性のある9.11事件からアフガン、イラク戦争への流れをみても、戦争をしたい人々がいることは事実。彼らにとって憲法九条ほどやっかいなものはない。なんとか分断統治したいと格差を広げ人々の絆を切ろうとしている。

私事ながら昨年末に障害者就労支援施設をオープンした。障害者自立支援法のもと逆風だが、不思議と力がわいてくる。障害者の口から語られる社会の歪みから多くの問題意識が芽生えてくる。と同時に彼らの純粋な心に癒される。問題を共有することにより人と人が繋がっていく。「べてるの家」には遠く及ばないが、小さな絆が少しずつ広がっていくような気がしている。

## 会員医師より

### 女性 眼科勤務医

娘の受験の付き添いで10日ほど、東京に滞在した。泊まったのは都庁のそばのホテルで高層ビルのまん中にある。受験勉強をしている娘を横目にぶらぶらする。意外と公園が多い。都庁の隣も公園で、どの公園にもホームレスが住んでいる。寒い朝、公園の水道で洗濯をしたり、じっと寝たりしている。五輪誘致のスローガンはにぎやかだが、ここの人達は放置なんだろう、駅に行くと次々に電車が行きかい、足早にサラリーマンが乗り込む。空調の効いた巨大なショッピングモール、サービスの行き届いたレストラン、いつでもあらゆる娯楽が手に入る。活気を感じると共に普段の生活を考える。1時間一本どころか、1日に数本しか走らないバス、そのバス停まで遠くてなかなか通院できないお年寄りの話をよく聞く。かといって、今の生活が東京のようになってしまったら私には住みづらくなってしまいうだろう。地方の良さもいっぱいある。ほんの少しの滞在だったが、地方と都市、その中にもある格差というものを実感して帰ってきた。格差を縮めるのは政府の政策によるはずだ。しかし、日本の財政事情は厳しい。これからますます厳しくなっていくのは確実だ。

今の年金問題などをみると以前の無責任政策のつけが回ってきているようなのだが、当時は誰もその事に気付かなかったのか、国会でもマスコミでもあまり問題にならなかった様に思う。起こった結果に対して責任を取る人間はいない。当時の責任者はとっくに辞めている。これからは、今何が行われているのかをしっかりと見ていかなくてはいけないだろう。無駄な事や失敗を繰り返す余裕は日本になくなってきているのだから。

## 九条への思いを県民に伝えよう

### 5・3 新聞意見広告募集中

かごしま九条の会では、昨年に引き続き、憲法記念日となる5月3日の南日本新聞朝刊に意見広告をとりくんでいるとのことです。

九条へのあなたの思いを意見広告として載せませんか。個人一口1000円です。

問い合わせ先 かごしま九条の会事務局 099-266-3371

### 昨年5月3日の意見広告紙面

発行元：九条医師・歯科医師の会かごしま事務局

鹿児島市明和1丁目26-7 ますみクリニック内 (TEL099-282-1586)

